

平成23年行政事業レビューシート (外務省)

事業名	人間の安全保障基金拠出金(任意拠出金)		担当部署	国際協力局		作成責任者		
事業開始・終了(予定)年度	平成12年度開始		担当課室	地球規模課題総括課		課長 松浦 博司		
会計区分	一般会計		施策名	VII-3 国際機関を通じた地球規模の諸問題に係る国際貢献				
根拠法令 (具体的な条項も記載)	外務省設置法第4条第3項		関係する計画、通知等	国連財政規則第6条、第7条				
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	国連関係国際機関がNGO等を連携して実施するプロジェクトを支援することで、貧困・環境破壊・紛争・地雷・難民問題・麻薬・感染症等の地球規模の諸問題に効果的に対処するための概念である人間の安全保障を実現し、人間の生存・生活・尊厳を確保していくこと。							
事業概要 (5行程度以内。別添可)	国連関係機関が人間の安全保障の実現に向け実施するプロジェクトを支援するもの。人間の安全保障がとるアプローチの特徴である、包括的・分野横断的なアプローチを確保するため、2以上の国際機関が共同で実施するプロジェクトが承認されることが多い。また、プロジェクト実施を通じて、裨益コミュニティのみならず実施機関に対しても、人間の安全保障の概念を普及する上で重要な役割を担っている。							
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 業務委託等 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 貸付 <input checked="" type="checkbox"/> その他							
予算額・執行額 (単位:百万円)	予算の状況	当初予算	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度要求	
		補正予算	-	-	-	-	-	
		繰越し等	-	-	-	-	-	
		計	1,824	1,662	1,238	919	841	
	執行額	1,824	1,662	1,238				
	執行率(%)	100%	100%	100%				
成果目標及び成果実績 (アウトカム)	成果指標		単位	20年度	21年度	22年度	目標値 (1012年度)	
	裨益コミュニティの人間の安全保障を実現及びプロジェクト実施を通じた人間の安全保障概念の普及。平成22年度承認した8件のプロジェクトにより、1,650,617人が裨益している。		成果実績	人	5,320,117	1,449,957	1,650,617	700,000,000
			達成度	%	0.076	0.0207	0.0236	
活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標		単位	20年度	21年度	22年度	23年度活動見込	
	22年度には22件のコンセプトノートが提出されている。同数程度のコンセプトノートの提出が見込める中、より一層人間の安全保障の実現に寄与する8件を厳選しプロジェクトを実施。		活動実績 (当初見込み)	案件数	13	8	8	— () ()
単位当たりコスト	3,003,756 (ドル/案件(H22年度))		算出根拠	平成22年度の承認案件総額(円) / H22年度の承認件数。				
平成23・24年度予算内訳 (単位:千円)	費目	23年度当初予算	24年度要求	主な増減理由				
	人間の安全保障基金拠出金	918,741	841,113					
	計	918,741	841,113					

事業所管部局による点検			
	評価	項目	特記事項
目的・予算の状況	○	広く国民のニーズがあり、優先度が高い事業であるか。	
	○	国が実施すべき事業であるか。地方自治体、民間等に委ねるべき事業ではないか。	
	—	不用率が大きい場合は、その理由を把握しているか。	
資金の流れ、使途・費目	—	支出先の選定は妥当か。競争性が確保されているか。	
	○	単位あたりコストの削減に努めているか。その水準は妥当か。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	—	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	
活動実績、成果実績	○	他の手段と比較して実効性の高い手段となっているか。	
	○	適切な成果目標を立て、その達成度は着実に向上しているか。	
	○	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	
	○	類似の事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担となっているか。	
	○	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	
点検結果	<p>1. 国連においては、2002年末の国連決議(57/300)に基づく事務合理化等の行財政改革の具体化を進めており、我が国としてもその大きな方向性を支持している。</p> <p>2. 人間の安全保障基金については、外務省と国連事務局人道問題調整部との間で平素より緊密な連絡を取りつつ、適切かつ迅速な審査が行われるよう努めているが、限られた予算の中でより効果の高いプロジェクトを実施するために、(1)他の資金スキームとの連携による経費の削減、(2)他の組織が実施したアセスメントを利用した案件形成により経費の削減、(3)よりパイロット的なプロジェクトへの重点的な支援の実施などに努めている。</p>		
予算監視・効率化チームの所見			
一部改善	<p>拠出額減額</p>		
	<p>上記の予算監視・効率化チームの所見を踏まえた改善点(概算要求における反映状況等)</p>		
<p>(縮減)拠出額減額</p>			
補記 (過去に事業仕分け・公開プロセス等の対象となっている場合はその結果も記載)			
<p>人間の安全保障は、我が国が外交の柱と位置づける重要な政策である。我が国の人間の安全保障基金は、「人間の安全保障」をその名前に持つ基金として、我が国が同概念を推進するに当たって最も重要なツールである。</p> <p>本基金を活用したプロジェクトの実施等も背景に、近年人間の安全保障に関する国際的な関心は高まりを見せており、昨年は国連総会決議が採択されるまでとなった。</p> <p>今後、同概念に対する国際的な支持をより一層定着したものとするためには、本基金に対する継続的な拠出は必須である。また、菅総理も昨年の国連総会において「人間の安全保障の考え方に沿って、包括的な開発支援に取り組み、MDGs達成に向けた国際的取り組みを主導する」旨発言しており、まさに同概念の実現を目的とした本基金を通じた支援は、その中心に位置付けられるものである。</p>			